

小林鱒二

句集 三巻

天牛

句集

隅々に写るあをぞら芹の水

蛤汁の春の濁りを啜るなり

法楽のわれに二枚の春障子

げんげ田の一枚に日を展げたる

出し抜けに鳴る草笛にはにかみぬ

掌の見えて大山は椒ん魚ざに貌のなし

板の間も下駄の窪みも夏の果て

真裸足といふ語のありし川千鳥

きのふけふ懸大根の網干場

色艶の中味からつぼ烏瓜

大師講根のものにみな甘味出て  
正直は亡母の諭し梅の花  
三つ指で鶯餅は抓むべく  
合はされて闇を一つに貝雛  
われ死ぬことの不思議や朝ざくら

蛇の髭に花やほろほろほろと  
蒟蒻の茎の涼しき通り雨  
吾妻郡字袋倉葛の雨  
寝ねがての秋の団扇となつてゐし  
だぼ鯨が魚籠に三匹十三夜

薄れ日の田水の震へ鶏乳む  
寒二十日蒟蒻玉のごとくみる  
腕力と菠薐草は苦手にて  
初蝶の残映やなほじぐざぐす  
あを空に影の生るる桃の花  
一陣の風とし失せし舟蟲や  
雲見花とや神奈備の檣咲く  
穹々と天牛鳴けり星逢ふ夜  
吾のいつも坐る石あり野分晴  
をなもみや女の子いぢめの初めなる

著者略歴

小林鱒一（こばやし　ますいち）

本名、小林市雄。

昭和4年10月10日、長野県大町市に生まれる。

昭和49年「杉」入会。

昭和55年「杉」同人。

昭和60年に第一句集『山日子』刊行、同句集で第15回杉賞受賞。

昭和63年『磯菜』、平成5年『竹節蟲』、平成8年『臍』刊行。

俳人協会会員。

---

句集　天牛（てんぎゅう）

発行　平成十一年四月二十五日

著者　小林鱒一

発行者　角川歴彦

発行所　株式会社角川書店